

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2020年9月15日

今月のトピックス 「景気回復まで全治4年？」

コロナショックで急速に景気は悪化したのだが、景気が立ち直るまでにどのくらいの時間がかかるだろうか？企業によってリカバリーの時間はまちまちだろうが、日本という国を1つの企業に例えて考えてみることにしよう。

コロナショックが勃発したときには既に景気はピークアウトしていたのはご存じのはず。そのピーク（山）は2018年10～12月期と「景気動向指数研究会」が判定している。当時の売上げにあたる実質GDPは約533兆円、足下の2020年4～6月期のGDPは約485兆円（第1次速報）だったことから、売上げは48兆円減少したことになる。景気の「山」と「谷」は後から「景気動向指数研究会」で判定されることになるのだが、世界的に経済活動が動き始めていることを考慮すれば、日本を含め大多数の国は4～6月期が景気のボトム（谷）であると思われる。今後、減少した48兆円の売上げは時間をかけてリカバリーしていくことになるわけだが、参考になるのが過去の景気循環と比較してみることにしよう。

1990年以降、山と谷を繰り返す景気循環は6回あったことになるが、最も大きな循環は2008年のリーマンショック後でした。ピーク（山）は2008年1～3月期の約507兆円、ボトム（谷）は2009年1～3月期の約463兆円。この間売上げにあたる実質GDPは約43兆円減少している。この43兆円の売上げをリカバリーしたのは、2013年4～6月期で4年と3ヵ月かけて約508兆円に回復したのである。直前の景気のピーク（山）である2008年1～3月期からの時間にすれば、5年と3ヵ月もの期間が必要だったことになる。途中、2011年3月には東日本大震災があったことから、想定外に時間がかかったのかもしれないが、今回の新型コロナもある意味想定外と言えることだろう。とすれば、今回のコロナショックもリーマンショック時と同程度の時間がかかってもおかしくはない。

ボトム（谷）から4年3ヵ月と考えれば、売上げが2018年10～12月期を上回るのは4年3ヵ月後の2024年7～9月期ということになる。4年超もかかるのか？と思われるかもしれないが、前回の景気のピーク（山）を回復する時期をエコノミスト22人に日本経済新聞社が聞いたところ、最多は2024年の9人でした。最も早いのは2022年の回答で6人であることから、リーマンショック時と同様の時間がかかるのは絵空事ではないと考えるべきだろう。